



時を彩る無色

無色透明空間デザインコンベンション「ガラスは見えない、見えるはず」

変質しないガラスが時間を紡ぎ、建築を支える。色の無いガラスが様々な場所で、表情を変えながら空間を彩る。

【ガラスの半永久性と強度】

本計画はこの2つのガラスの特性をデザインソースとした近代化産業遺産の保存計画である。

近代化産業遺産には途中で折れた柱や抜け落ちた屋根など、随所に歴史の爪痕が残り、その1つ1つが未来に残していく価値がある。しかし、現状をみても、不透明な材によって保存が行われ、建築本来の姿を見えなくしている。

そこで、私たちはそんな痕跡を、その場所、その素材に適したガラスで置換、補強を繰り返していく。

ガラスは見えない。

無色のガラスだからこそ、そこに歴史や場所が映りこみ、時を紡ぎながら空間を彩っていく。

Theme

産業の近代化を支えた建造物が、近代化産業遺産として注目されている。時代は変わり次の世代へ、その役割が引き継がれていく。その為になような作法が適切であるのかを考える。



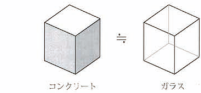
Material

ガラスは建築材料として半永久的に持続すると言っても過言ではなく、強度としても他建材に劣らない。朽ちていく建築に対する保存としての機能性に適し、見えない素材として空間を引き継いでいく。

ガラスの半永久性

金属 (アルミ)		15年
コンクリート		50年
木材		7年
軽鋼鉄骨		20~30年
ガラス		

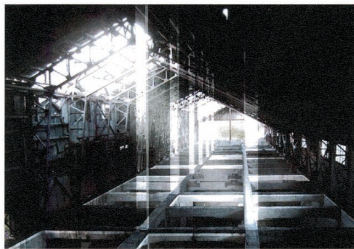
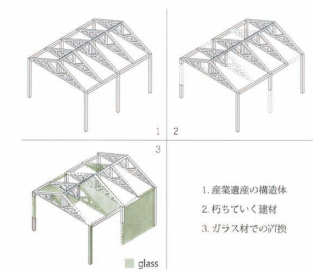
構造材としてのガラス



Method

朽ちた建材の代わりとしてガラス材を置換していく。その場所や素材に合ったガラスで置換、補強を繰り返していく事で建築自体を保存していくとともに、時間によって移ろう空間を描き続ける。

作法としての建材置換



【見えぬガラス】は反射に映らないが、日射などの条件によって褪れたり、また消えたり、非日常的な空間を生む。



耐蝕性の強い【デンハックス】をとも絡みを生ずる屋根の抜け落ちた部分に用い、降り注ぐ光に輪を与える。



【シラソア】を欠けた柱に継ぎ足す。半透明の性質は背景をぼかし、柔らかく光り、空間を照らす。



強い強度を持つ【強化ガラス】によって、強度の足りない場所を補強し、同時に空間に豊かさを与えていく。



【低反射ガラス】を板けた屋根の下の梁材として使い、ガラス特有の降り注ぐ光の反射を抑えながら、建築を支える。



半透明な【すりガラス】を床材として使い、視線をさえぎりながら、やわらかい光を均一に取り入れる。



耐蝕性・耐久性に優れた【ネオパリエ】を梁として置換することで建築物を支えながら光は乱反射し、空間を色付ける。



既存のコンクリートブロックを継承し、【ガラスブロック】を連続させ、曖昧な空間の関係性を生み出す。



かつて床があった場所に、【床ガラス】を敷くことで、ただ抜け落ちていた場所が地下と断面的に繋がる場となる。



風化によって崩れた部分に【フロートガラス】を用いる。時間の痕跡をありのままの姿を残しながら修復し、補強する。



防火性に優れた【ファイアライト】で守る。万が一の際にも、この場所にとって大切なものは残り続ける。



【見えぬガラス】による家は、光が外部に突き出した部分から室内を乱反射しながら広い、暗い空間の中で柔らかく光る。